



山口さん(左)、菅さん(右)

東朋中学校では、総合的な学習の時間のなかで「防災学習」を行っています。昨年度、石碑調査・HUG(避難所運営ゲーム)・HUT(避難所運営体験)を体験した生徒にお話を聞きました。

Interview

やまぐち みお 山口 美緒さん(2年)・すが かえら 菅 楓空さん(2年)

—家族で防災について話しますか。

山口さん 地震があったら、高台にある自宅より海側に行かないように言われています。
菅さん 登下校中に地震があったら赤崎小か東朋中に避難すると家族で決めています。

—防災学習で印象に残ったことは何ですか。

菅さん HUT(避難所運営体験)では、災害時にどのように避難所を運営するのかという体験をしました。3年生が優しい声がけや丁寧な案内をしていて、こういうことが避難者の安心に繋がると思いました。
山口さん 赤崎公園の中にある明治29年の明

治三陸地震、昭和8年の昭和三陸津波の教訓を伝える津波記念碑を調べました。石碑に「地震があったら津波の用心、津波がきたら高いところへ」と書いてあり、地震の強さに関わらず津波がくることがあると知りました。

—防災学習を通して学んだことは何ですか。

山口さん 石碑調査の後、防災学習館を見学し、津波で、本当にたくさんの家や物が流されたことを知りました。いざというときに備え、避難バックを準備したいと思いました。そして、注意報だからと油断せず、常に最新の情報を意識しなければと思いました。
菅さん 赤崎公園内の石碑調査により神戸大学大学院に震災直後から支援していただいたと知りました。私は昨年、赤崎復興市の運営にボランティアとして参加し、神戸大学の学生の方々と交流をしたので、震災からの繋がりが今に続いていることや、たくさんの支援や協力があって大船渡が復興したことを知り、助け合うことも大切だと感じました。



防災学習館に隣接する公園内には津波記念碑があります。探してみましょう！

「防災出前講座」やります！

市防災管理室では、地域・団体・学校などに出向いて、出前講座を行っています。開催を希望する場合は、防災管理室までお問い合わせください。



緊急情報
発信中

「市LINE公式アカウント」では、火災や大雨などの災害情報を発信しています。ぜひ、友だち登録をお願いします。

市LINE公式アカウント



「学ぶ。」

災害時は、知識を基に臨機応変に行動することが大切です。防災訓練への参加や、災害を経験した人の話を聞くなど、日常的な積み重ねがいざというときの避難行動に繋がります。

赤崎町の「大船渡市防災学習館」は、東日本大震災の発災当時、地区公民館であり、災害時の避難所に指定されていたことから、発災後4カ月以上に渡り、地区の人たちが避難生活をしました。

現在は、避難所だった状況をそのまま残し、施設のガイド役を務める人たちの説明を聞きながら、防災について学べる施設になっています。



- ▶開館時間：午前9時～午後5時(毎週水曜、お盆(8/13～16)、年末年始は休館)
- ※都合により、臨時に休館または開館となる場合があります。
- ▶入館料：無料
- ▶利用方法：事前予約が必要です。1週間前までに、赤崎地区公民館まで連絡ください。赤崎地区公民館：☎22・9833(FAX兼)



震災当時の対応などをパネルやジオラマで紹介

大船渡市
防災学習館



避難所に寄せられた支援物資の一部を展示



防災学習館の見学者にはガイド役が館内を案内しながら展示物などの説明をします。ガイド役の金野さんにお話を聞きました。



大船渡市防災学習館
ガイド役 金野 律夫さん

東日本大震災時、私は避難所の運営に携わり、支援物資の配布や各種手続きなどの情報を神社や広場で避難している人たちに伝達する係を担いました。防災学習館のガイドをする際は、自分の体験の他に、伝達係をしながら地域の人から聞いた地震から津波までの短い時間に起こったさまざまなエピソードを盛り込み、当時の様子がリアルに伝わるように心がけています。
施設を案内した最後には、津波の映像を見せます。そうすると必ず館内が静まり返ります。見学者がいろいろなことを感じ取ってくれていると実感する瞬間です。この施設は、ピーク時には300人もの避難者が共同生活をしました。館内の状況がそのときのままだからこそ、皆さんに生々しく東日本大震災の体験が伝えられると思っています。